



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久 (APIR 研究統括)

内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年8月5日)

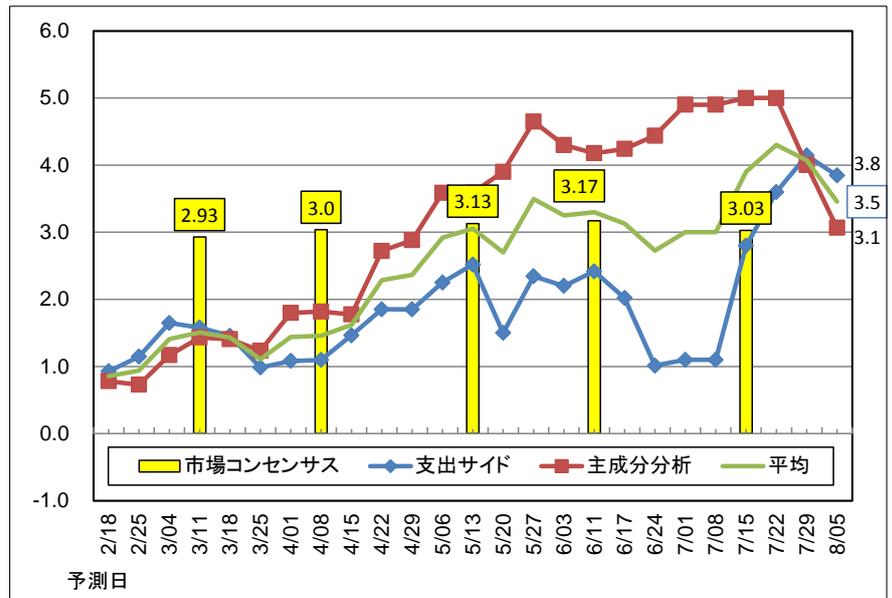
ポイント

▶先週発表されデータ更新により、4-6月期の実質民間住宅の予測値は先週から横ばい。実質民間企業設備の予測値は下方修正。実質民間企業在庫品増減の予測値も下方修正された。その他の項目の予測では、公的企業在庫品増減が小幅の下方修正、公的固定資本形成が上方修正、雇用者報酬が上方修正となった。

▶これらを反映した今週の超短期モデル(支出サイド)は、4-6月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.8%と予測する。先週(+4.1%)から下方修正。一方、生産サイド(主成分分析モデル)は、同+3.1%と予測。更新された6月の生産関連のデータは事前予測より悪かったので、予測値は先週(+4.0%)から下方修正された。

▶結果、両モデルからの平均成長率は同+3.5%となり、前期に匹敵する高成長が実現するであろう。なお、12日に4-6月期のGDP1次速報値が発表されるため、今週が最終予測となる。

CQM予測の動態：実質GDP成長率
2013年4-6月期(%, 前期比年率換算)



<4-6月期の実質GDP成長率最終予測：支出サイド+3.8%、生産サイド+3.1%と前期に匹敵する高成長>

先週(7/29-8/2)は、7月の新車販売台数、財政対民間収支、6月の労働力調査、毎月勤労統計、一般職業紹介状況、鉱工業指数、家計調査、商業販売統計、建築着工統計及び5月の建設工事費デフレータが発表された。

これらのデータは民間住宅、民間企業設備、民間企業在庫品増減、公的企業在庫品増減、公的固定資本形成及び雇用者報酬の予測に影響を与える。

6月の建設工事費予定額は事前予測を小幅下回ったが、4-6月期の実質民間住宅の予測値は先週から横ばい。6月の資本財出荷指数は事前予測を大幅下回ったため、同期の実質民間企業設備の予測値は先週から下方修正。また6月の最終需要財在庫指数は事前予測を下回ったため、実質民間企業在庫品増減の予測値は先週から下方修正された。その他の項目では、公的企業在庫品増減の予測値が小幅の下方修正、公的固定資本形成の予測値が上方修正、雇用者報酬の予測値が上方修正された。

これらを反映した今週の超短期モデル(支出サイド)は、4-6月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.8%と予測する。内需及び純輸出が引き続き拡大するためである。先週(+4.1%)から下方修正。一方、生産サイド(主成分分析モデル)は、同+3.1%と予測している。更新された6月の生産関連のデータは事前予測より悪かったので、主成分分析モデルの予測値は前回(同+4.0%)から下方修正された。両モデルからの平均成長率は同+3.5%となり、前期に匹敵する高成長が実現するであろう。なお、12日に4-6月期のGDP1次速報値が発表されるため、今週が最終予測となる。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690